

15 消化器癌肝転移に対する5-FUを用いた時間治療 (chronotherapy) の経験

宗岡 克樹・白井 良夫*・横山 直行*
若井 俊文*・小川 洋*・畠山 勝義*
新津医療センター病院外科
新潟大学大学院消化器・一般外科学
分野 (第一外科)*

【目的】消化器癌の肝転移に対し5-FUを用いた時間治療 (chronotherapy) を施行した。本報告ではその有効性を検討する。

【方法】対象は肝転移巣を有する消化器癌患者13症例で、原発は大腸8例、その他5例 (胆管2例、胃1例、膵臓1例、乳頭部1例) であった。PMC療法 (週1回の5-FU 600mg/m²/24h持続静注およびUFT 400mg/day週5～7日間経口投与の併用) またはTS-1投与 (150mg/dayを週1～2回、15時、22時に分割経口投与) を外来で施行した。PDの場合は5-FU、TS-1の投与量を段階的に増量した。化学療法施行日に血清5-FU濃度 (ng/ml) を測定し、ピーク値 (Cmax) を求めた。治療期間は3～19か月 (中央値7か月) であった。

【結果】肝転移巣のPRは7例、NCは6例であった。Grade 2以上の副作用はなかった。奏効 (PR) 率は大腸癌8例中5例、その他5例中2例であった。全症例で午前3時にCmaxが得られ、PR症例でのCmaxは大腸癌：146～356 (中央値291) ng/ml、胃癌：300ng/ml、乳頭部癌：529ng/mlであった。

【結論】5-FUによる時間治療は消化器癌肝転移 (特に大腸癌肝転移) に対し有効である。血清5-FU濃度のモニターは、個々の症例で薬剤の投与量を決定する際に有用である。

16 治癒切除不能胃癌に対するTS-1/CDDP療法

大橋 学・神田 達夫・中島 真人
矢島 和人・本間 英之・中川 悟
畠山 勝義
新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野

【背景と目的】当科では治癒切除不能と診断された症例にTS-1/CDDP療法を施行している。本治療法の安全性と有効性とを検討する。

【対象】上記条件に該当する9例。経口摂取不能例にはバイパス手術を施行後治療開始。

【方法】TS-1は70mg/m²を3週間内服、8日目にCDDP 60mg/m²投与。病状安定後はTS-1単独投与。安全性はNCI-CTCに基づき評価。有効性は奏効率、生存期間により評価。

【結果】治療期間の中央値は5か月で、2～4コース完遂。有害事象は検査所見でGrade 2以上43%、Grade 3以上14%。臨床症状ではGrade 2以上57%、Grade 3以上14%。評価可能7例では奏効率はPR 3例43%で、1例には4コース施行後根治手術施行。また、SD 4例 (うちMR 2例) で、全例が生存。

【まとめ】TS-1/CDDP療法は治癒切除不能胃癌症例に対して安全に行え、効果も期待できる。

17 一般病棟におけるターミナルケア (食道癌・乳癌の終末期症例の痛みと鎮静の現状)

片柳 憲雄・桑原 史郎・坂田 純
山崎 俊幸・大谷 哲也・山本 睦生
斎藤 英樹

新潟市民病院外科

【目的】食道癌・乳癌の終末期症例の癌性疼痛管理の現状について検討した。

【対象と方法】2002年10月末までに外科病棟で最後の入院を迎えられた食道癌症例70例と乳癌症例41例を対象に、痛みの原因、使用した鎮痛剤、鎮静、輸液量等について検討した。

【結果】鎮痛剤の投与を必要とした疼痛は食道癌症例62例、乳癌症例34例にみられ、最終的に